C　～白鳥と鴉～

藍色０９

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｃ　～白鳥と鴉～

【Ｎコード】
Ｎ３６５９Ｉ

【作者名】
藍色０９

【あらすじ】
白の記憶は街の路地裏から始まった。何も分からない間に東西間の抗争とやらに巻き込まれ、挙句逃亡生活を強いられることになる。同行する少女には秘密があるようで・・・？
長編第一部。

・・・

なので少年は男に『青鬼』というニックネームをつけていた。
青鬼とは少年が幼少時に見た少ない書物の一つに登場するキャラクターだ。怖い人相で凶暴。片手に鉄の棍棒携えている。
バタン、と強い力でドアが閉じる音が聞こえる。
来た、と少年は身体を震わせた。それからドタドタと床を踏み鳴らす音が聞こえる。次の事を考える間もなく、開錠の音とともにドアが開かれる。視界は何も映し出さない。廊下を照らす弱い明かりでさえ少年には眩しすぎた。
虚ろな眼で、戻ってきた視界をぼんやりと眺める少年は思っていた。
明るんだ世界はどうしてこんなにも恐ろしいのかと。
視界には少年が青鬼と称する男が立っていた。いつも通りだ。眉にしわを寄せ、仇のように少年を睨みつける。何に憤っているのか、何を憤っているのか、さりとて何に対する憤りもなくそれがデフォルトなのか、少年には分からない。少年に分かるのは襲い掛かる痛みと、行き尽いた諦観だけだ。
しかし少年には少しずつわだかまりが生まれていた。
それが何なのか、まだ少年には分からずじまいで。
その日もまた、青鬼は一時間ほどかけて少年を痛めつけた後、少年を残して部屋のドアに施錠をした。
再び遮断された空間で、少年はゆっくりと目を閉じる。
闇に溶けるように、馴染むように、沈むように。
希望のない終焉の夢を、今日も視る。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3659i/

Ｃ　～白鳥と鴉～

2010年11月22日23時18分発行